妖怪退治の神浪家

庵豆のBadEndStory Act.2 vs孕ませ汚やじ

神浪(かなみ) 庵豆(あんず)

妖怪退治を生業にする
退魔士の一家、神浪家の長女

その能力はかなり高く
同業者だけでは無く
妖怪の間でもその存在は
噂となるほど

また、
その豊満な肉体を目的に
妖怪やよこしまな人間が
近寄ってくる事も多い

孕ませ汚やじ

異常な性欲を持った中年のおやじ
その性欲を表すからのように大量の精子を
金玉に蓄えており、常人の 10 倍の大きさがある
普段は痴漢、盗撮、下着泥棒、露出を繰り返す変質者
あまりに下劣な思考をしている為、
最近、半妖怪と化してきている

今までに一度もまともに女性と付き合った事はなく、
結婚というものにも興味はないが、
自らの遺伝子を後世に残そうとする意志はある
その劣等遺伝子を優秀な母体に注ぎ込むため
庵豆に目を付けた

退魔士、庵豆（あんず）は妖怪退治の日々に明け暮れていた
近年、増加する人間の負のエネルギーにより
膨大な数の妖怪が姿を現し始めたからである
そして、ようやく数日ぶりに休息を取る日がきた

ふぅ…久しぶりに
家に帰って来たわ…
やっと布団で
ぐっすり寝れるわね

んんッ!!
な…なんだろ…
すごく変なにおいがする…
て…てゆうか…私のベッド
なんかこんもりしてる…
え…ま…まさか…
モワッ

ちょ…ちょっと
誰かいるのッ!!
わ…私のベッドに
入ってるのは誰!?

いや～ッおかえりなさい
庵豆さんおつかれさまです
帰るのが遅いのでちょっと
休ませてもらってました…
えッ…だ…誰!?
なんで私の家にッ
うッ…く…臭ッ
誰なのよあんた!!
のそッ

この家には数日前、
庵豆さんが鍵を開けたまま
買い物に行った隙に
入ったんですよ～うへへ
ま…まさか
それって一週間くらい前
じゃないッ!!
そんな前からいたの!?
楽しませて
いただきましたよぉ
庵豆さんの残り湯に入ったり
歯ブラシも毎日使わせて
もらいました～へへッ

あと俺豆さんの
下着も何回か
装着しましたし…
とにかく全てが良い匂いで
何回も抜いちゃいましたよ
もういいわッ
と…とにかく
すぐ出ていき
なさいッ!!
ど…どうりで
1週間くらい前から
あちこちで変なニオイが
するし…白い液が
ついてたのね…

出ていくわけにはいかないですね～
やっと俺豆さんに出会えたことですし
目的を達成させてもらいます
も…目的って…
なんのつもりか知らないけど…
早く出ていかないと警察を呼ぶわよ
このオヤジ…
人間のようだけどうっすら妖気も感じるわね…

それが俺豆さん…
あなたは私に抵抗
できないんですよ…
最近、私…不思議な
力を手に入れましてね
ふ…不思議な
力って一体…!?
なんなの…
何かおかしいわ
このオヤジ…
まさか半妖怪ッ
だとすると
本当に何か能力が
あるのかも
きゅいいいいいん

ドドド

その美しい容姿に豊満な体…
そして…優秀な退魔士…
完璧な女性ですよ…男性なら
誰でも憧れてしまうでしょう…
私はそんな俺豆さんで毎日オナニー
して煩悩が積み重なっていく内に
ついには半妖怪となりこの力を
手に入れたんです…
や…やめなさいッ
ぐッ…身体が
言うことを聞かない
ドドド
たぷん
たぷん

きゃあ
ぷるんッ
では…
これからしばらく
庵豆さんの身体を
堪能させていただきます
なにしてるのッ
早く戻してッ

ぴくッ
いやッちょッ
いやあぁッ
やめてぇ!!
ぱくッ
夢にまで見た
庵豆さんの
おっぱい…
いただきますッ

ぴくッ
ぴくッ
いやあああッ!!
吸わないでえ
気持ち
悪いッ!!
ちゅううッ
これは
美味ッ!!

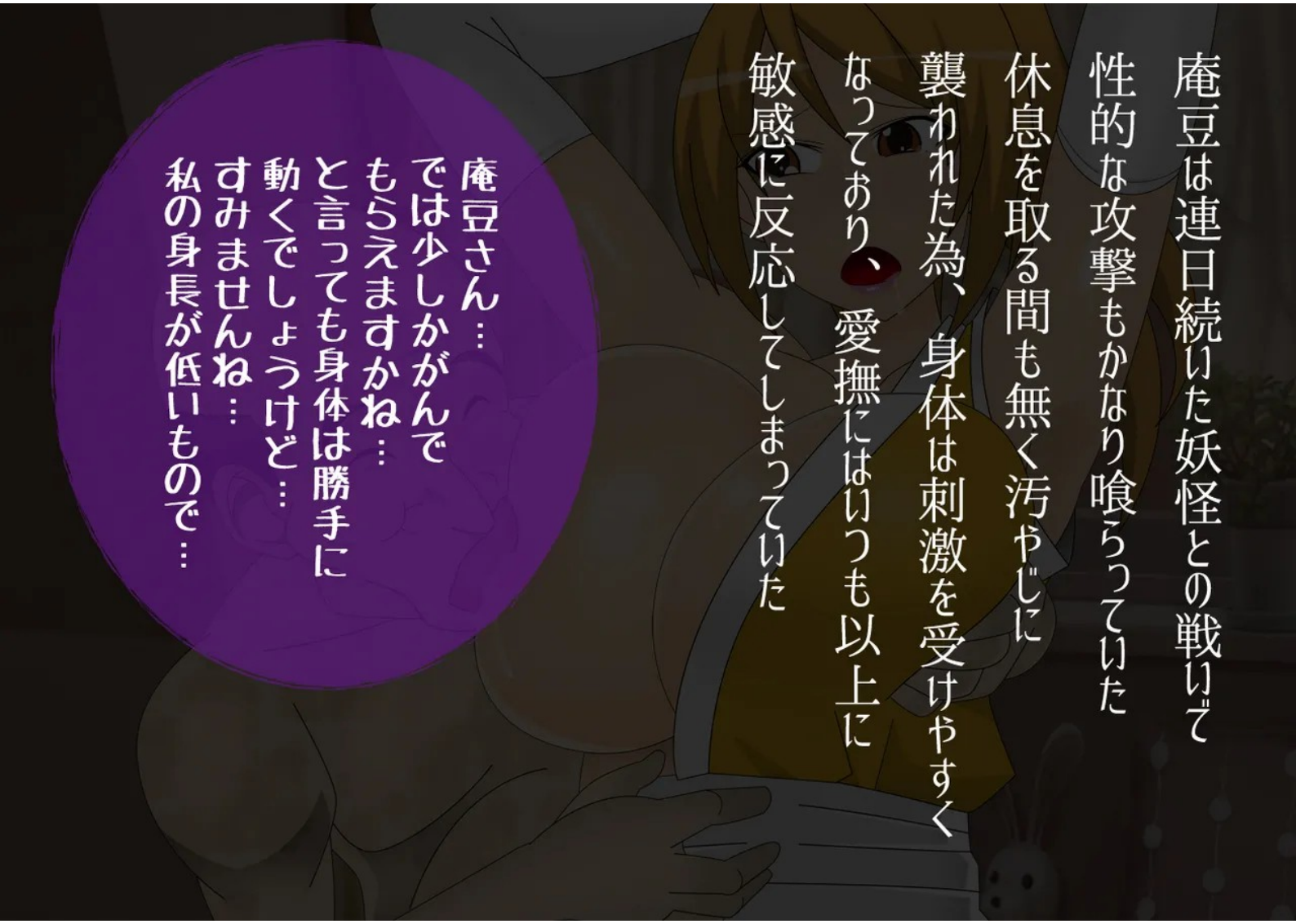
こんな事してッ!!
ただじゃ
おかないわよ
もみゅう
びくッ
んッ!!
ちゅぱ
ちゅぱ
そんなに
怒ってもすぐに
怒りは無くなり
ますよ〜
なんせ
もうすぐ私たちは
愛し合うんです
からッうひッ

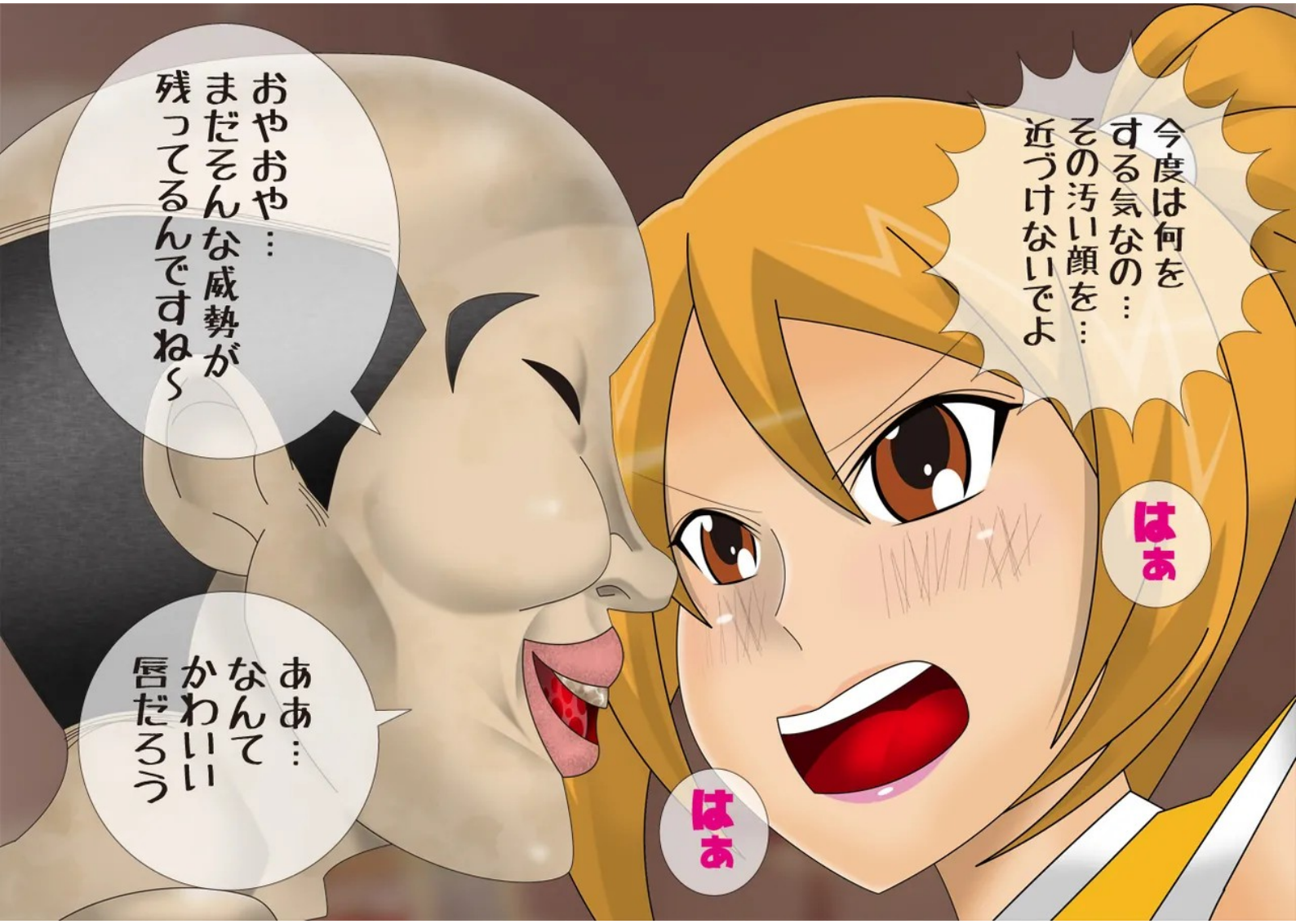
あ…愛しあうって
何言ってるのよッ
誰があんたみたいな
汚いおっさんと…
むにゅ
むにゅ
このかわいいお腹に
私の劣悪遺伝子を
孕ませるんですよ～
それこそ私の目的です
ちゅぱ
ちゅぱ
さわさわ

いやぁあ
もう吸わないでぇ
その吸い方…
だめぇ!!
びくッ びくッ
むにゅ むにゅ
これ以上…
吸われたら…
もぉ…わたし…
おかしくなる…
びくッ
ちゅう
ちゅう
やめらないですよッ
こんなに美味しい
ですからッ!!

ぽ～
はぁ
はぁ
ま…まずいわ…
おっぱいが…すごく
敏感になってきてる…
それにこのオヤジの
吸い方…揉み方…
いやらしすぎる…
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅう
ちゅう
どうですか？
庵豆さんッ
私の愛撫は…
これは庵豆さんの
為にずっと練習
してたんですよ～

も…もう
満足でしょ
や…やめて
はぁ
はぁ
ああ…だめだ…
こ…このオヤジの
愛撫を求めてしまい
そうになってる…
しっかりしないと…
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅう
ちゅう
なんか
すごく気持ち
よさそうですけど
やめていんですか?


庵豆は連日続いた妖怪との戦いで
性的な攻撃もかなり喰らっていた
休息を取る間も無く汚やじに
襲われた為、身体は刺激を受けやすく
なっており、愛撫にはいつも以上に
敏感に反応してしまっていた
庵豆さん…
では少しかがんで
もらえますかね…
と言っても身体は勝手に
動くでしょうけど…
すみませんね…
私の身長が低いもので…

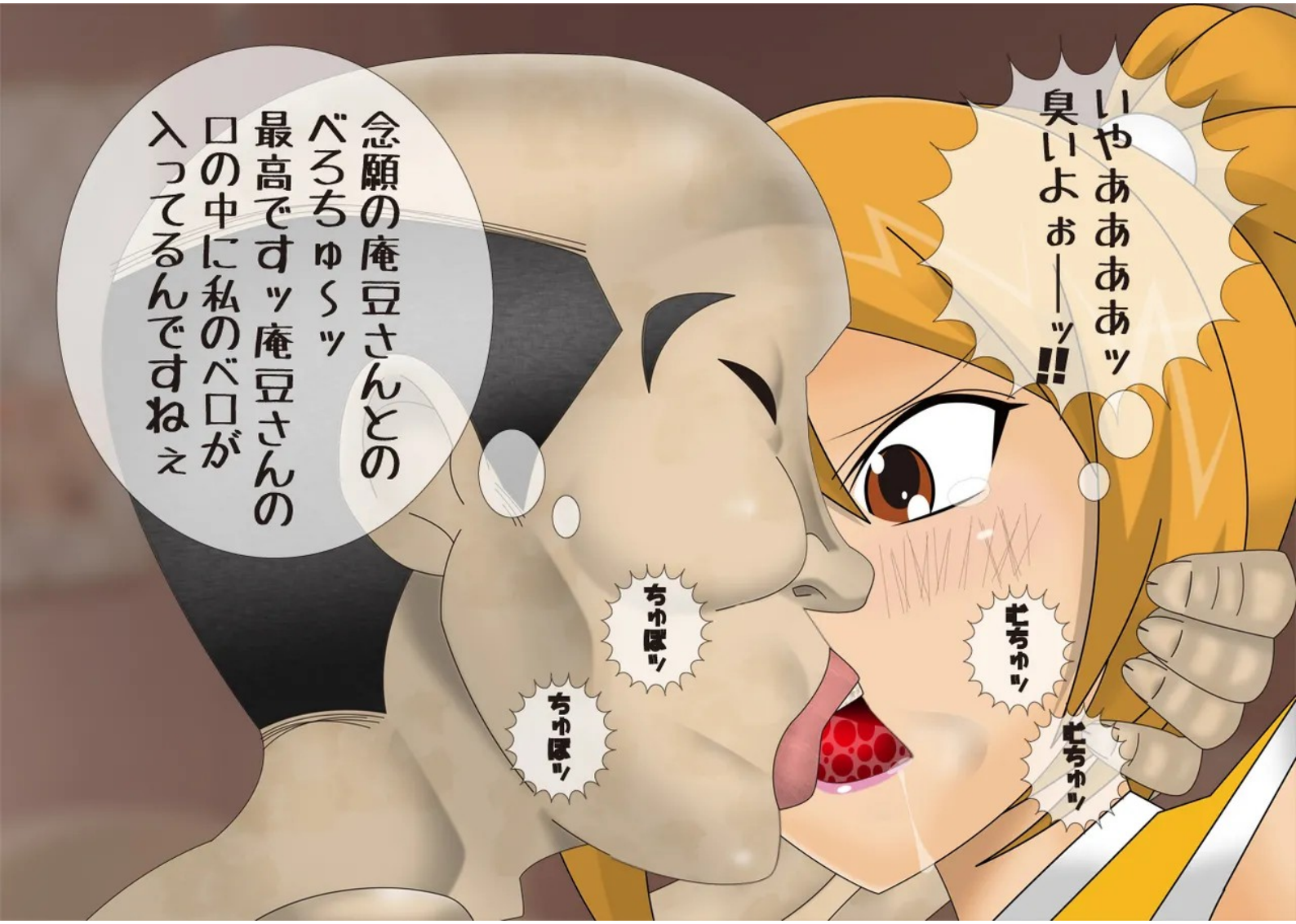

今度は何をする気なの…
その汚い顔を…
近づけないでよ
はぁ
はぁ
おやおや…
まだそんな威勢が残ってるんですね～
ああ…
なんてかわいい唇だろう

くッ臭い
な…なんなの…
この口臭…鼻が
おかしくなりそう
はあ～
失礼ですね…
これでも毎日ちゃんと
庵豆さんと同じ
ハブラシで磨いて
たんですよ～ッ

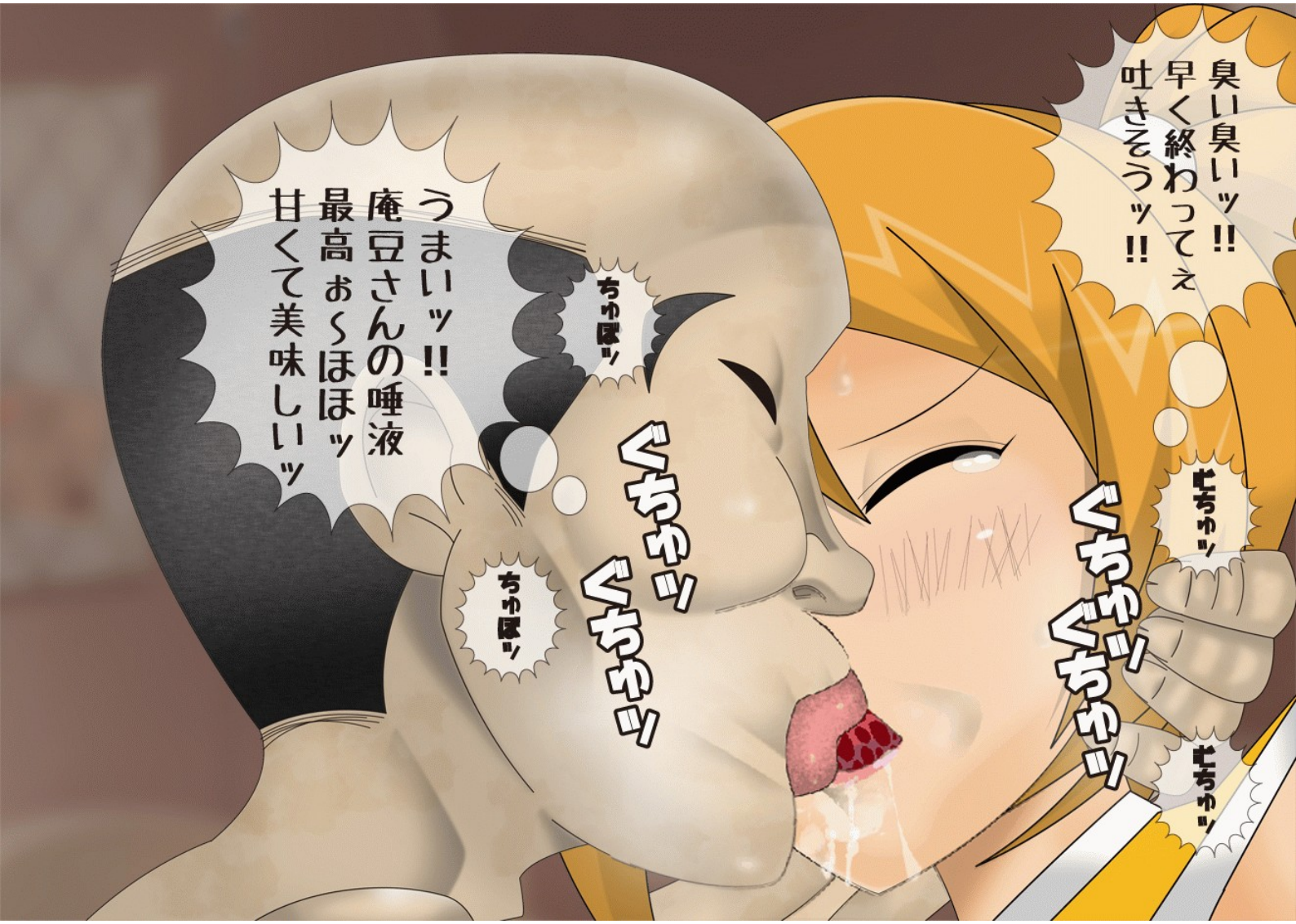
あぁッ
く…くちが勝手に
開いていくぅ
もわぁ
さぁ庵豆さん
恋人の証として私と
誓いのベロチュウを
しましょう

い…いやだ…
キスなんて…
絶対したくない…
はぁ
べぇ
はぁ
庵豆さん…の息
すごく甘くて良い
においがしますッ
本当に良い女ですねぇ

んんやぁ
んあああああ!!
いただきます!!
べちょ!!


いやあああああッ
臭いよぉ――ッ!!
ぢちゅッ
ぢちゅッ
ちゅぽッ
ちゅぽッ
念願の庵豆さんとの
べろちゅ～ッ
最高ですッ庵豆さんの
口の中に私のベロが
入ってるんですねぇ

さ…最悪…
こいつ…
私の歯を1本
ずつ舐めまわ
してるぅ
んぐぅ
ぷぢゅ
むちゅッ
むちゅッ
むちゅッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ちゅぽッ
ちゅぽッ
庵豆さんの粘膜…
あったくて気持ち良い
くちの中の唾液…
全部飲みたいくらい
美味しいキスだ…


臭い臭いッ!!
早く終わってぇ
吐きそうッ!!
ぢちゅッ
ぐちゅッぐちゅッ
ぢちゅッ
ちゅぽッ
ぐちゅッぐちゅッ
ちゅぽッ
うまいッ!!
庵豆さんの唾液
最高ぉ〜ほほッ
甘くて美味しいッ

はぁ…はぁ…
やっと終わった…
頭がくらくらする…
はぁ
はぁ
ぷはぁッ
ごちそうさまです
庵豆さんとのキス
最高でしたッ
次は下のほうを
ごちそうに
なりますねッ
え？

ちょッ…いや…
なんでこんな恰好
見ないでッ…
恥ずかしいッ
プルッ
プルッ
ぱかッ

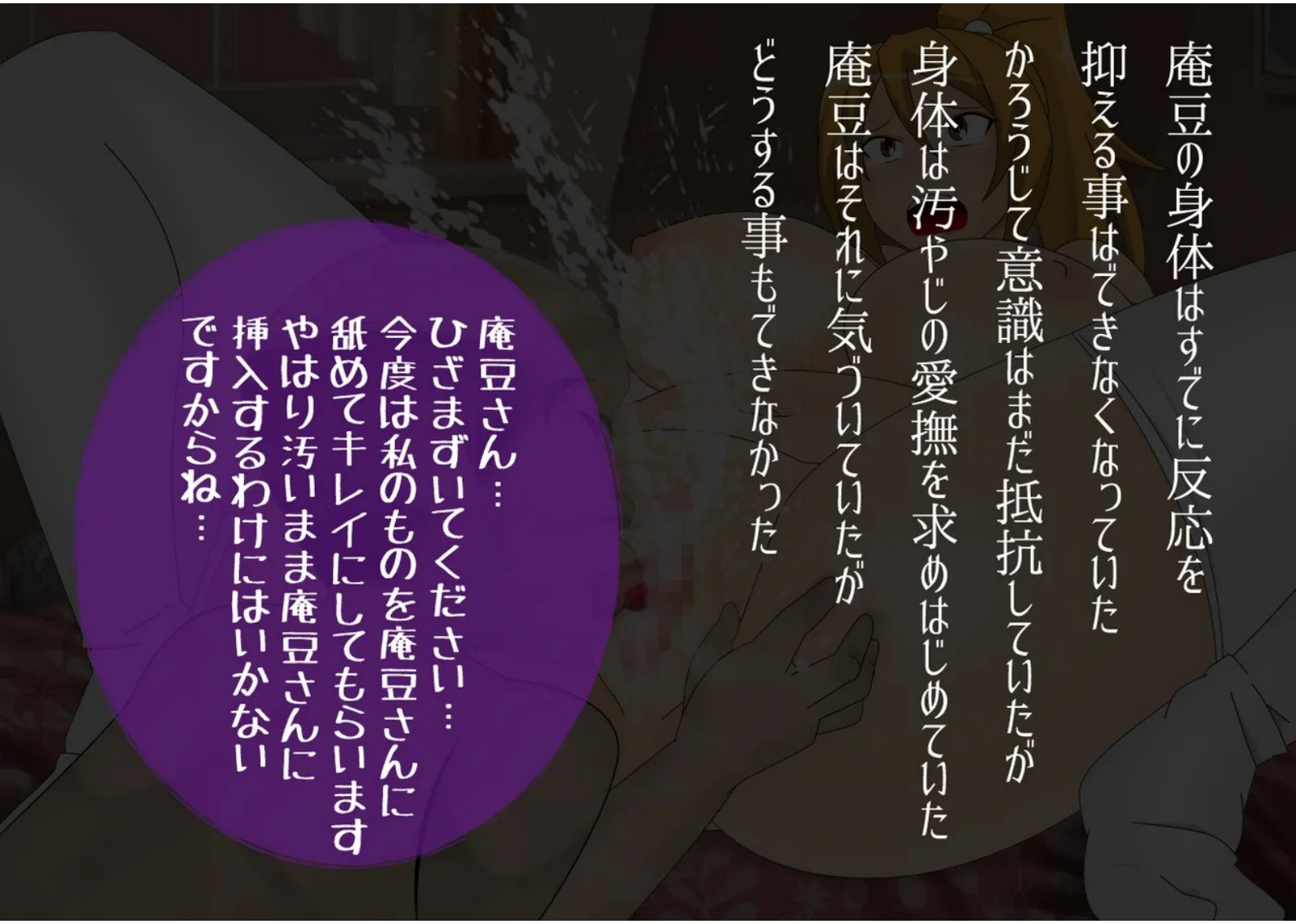
いやぁ
そんな所…舐めないでッわ…私まだ…お風呂も入ってないのよッ…
くぱッ
ぺろッ
うんッ…これは…汗とおしっこの味がしますねぇでもこの美味しさ
さすが俺豆さん

びくッ
びくッ
ああんだめぇ
舐めないでぇ
い…今は本当に
だめなのぉ…
おや～ッ
なんだか濡れて
きましたねぇ～
甘い蜜が溢れて
きましたよぉ～
れろっ

ひいいッ
びくッ
びくッ
だめだってぇ
いやあああああッ
ベロを入れないで
美味美味ッ
じゅぼッ
じゅぼッ

ああああッ
びくッ
びくッ
びくッ
す…すごッ…だめ
そんなに動いちゃ
わ…わたし…もう
我慢できないッ
じゅぼッ
じゅぼッ
じゅぼッ
じゅぼッ
庵豆さんの中から
どんどん蜜が
溢れてきてますよぉ
気持ちいいん
ですねぇ～ッ

ぶしゅあああッ
でちゃうぅぅッ
うほッ
じゅぼッ
じゅぼッ


庵豆の身体はすでに反応を
抑える事はできなくなっていた
かろうじて意識はまだ抵抗していたが
身体は汚やじの愛撫を求めはじめていた
庵豆はそれに気づいていたが
どうする事もできなかった
庵豆さん…
ひざまずいてください…
今度は私のものを庵豆さんに
舐めてキレイにしてもらいます
やはり汚いまま庵豆さんに
挿入するわけにはいかない
ですからね…

お願い…
もうやめて…
こんなの舐める
なんてできない…
はぁ
はぁ
こんな…
チンカスだらけの
舐めたら…びょ…
病気になるわ…
でもチンカス
だらけのチ○ポを
挿入したら妊娠に
差支えがあるかも
しれないですからねぇ
びんッ

に…妊娠て…
なにを言ってるの…
それに私が舐めなくても
お風呂で洗えば
いいでしょ
はぁ
はぁ
いやだ…
こんな汚いチ○ポ
舐めたくない…
こいつ…絶対
おかしい…
何回お風呂に
入ってもすぐにカスが
溢れて出てくるんですよ
その証拠に皮の中の
カスを見せますね～

いやあッ
くさいッ
なんなのこれッ
カ…カスつきすぎ
どうやったらこんな
ううッ…ひどい
においだわ…
もわッ
ぼろ
ぼろ
ほら～すごいでしょ
取っても取っても
すぐにカスだらけに
なっちゃうんですよ～
きれいにしてください

ね…ねぇ
これは本当に無理だよ…
お願いだから…
一度お風呂で流してきて…
そ…そうすれば
舐めるから…
ぷ～ん
大丈夫ですよ…
心配しなくても
庵豆さんの舌や顎は
私の能力で動かして
あげますからッ

ぐいぐい
いやッ
やめてえ
ふぎいいッ
臭いッ!!
臭いよぉッ
だめですよ〜
歯を立てたらッ
ゆっくり丁寧に
舐め取って
くださいねぇ

あううッ
いやあッ
なんで私が
こんな目に…
にがいッ
くさいッ
なんなの
この味…
ベちゃ
ベちゃ
いいですよ～
おうッ…き…
気持ちいいです…
なかなか良い
舌使いですよぉ

いくら舐めても
全然取れないわ…
し…舌にねばねば
絡みついて…
気持ち悪い…
ぺちゃ
ぺちゃ
ぺちゃ
ぺちゃ
やはり
舐めるだけじゃ
取れませんか…
じゃあ口の中で
洗浄しましょう

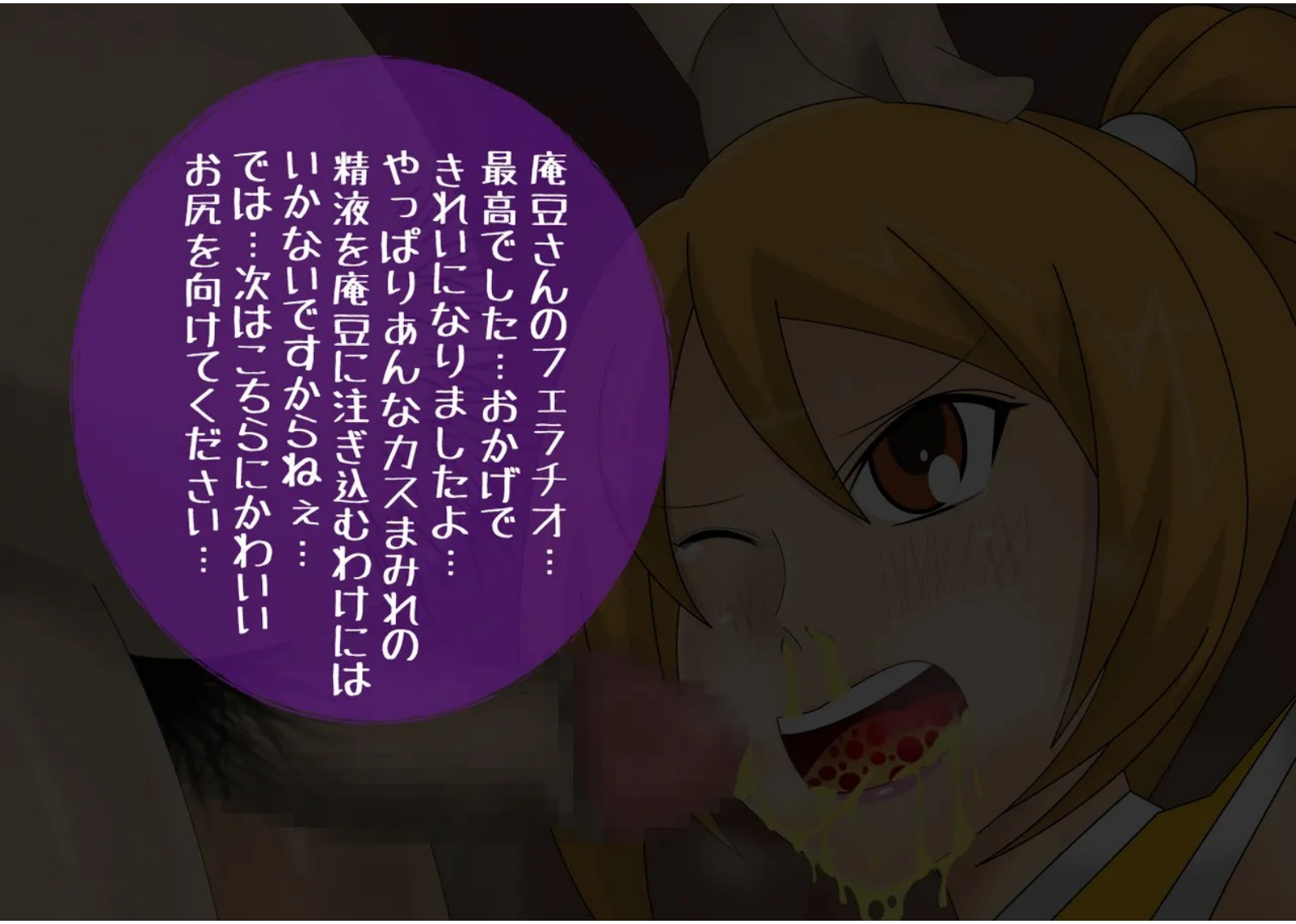
ふぎゅううッ
ぐぼッ
あぁッ
これはいいですねッ
俺豆さんの口の
中…あったかくて
すごく気持ちいい

頭がおかしくなりそう…
この悪臭…
んぢッ
ぢぐッ
ぐちょ
ぐちょ
最高ですッ
気持ちよすぎですよ
庵豆さんッ

ぶごッ
んぐぅ!!
がしゅ
がしゅ
がしゅ
がしゅ
あぁッ
出るッ…
出ちゃいます
受け止めて
くださいッ
んぢッ
ちくッ

うッ
どばッ
んぶぅ!!

お…おえぇ…
気持ち悪い…
は…鼻の中まで…
カスまみれの…
精液が…
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
うわぁ…カスが
まじって精液が黄色く
なってますねぇ…
我ながら…これは
汚すぎますね…はは

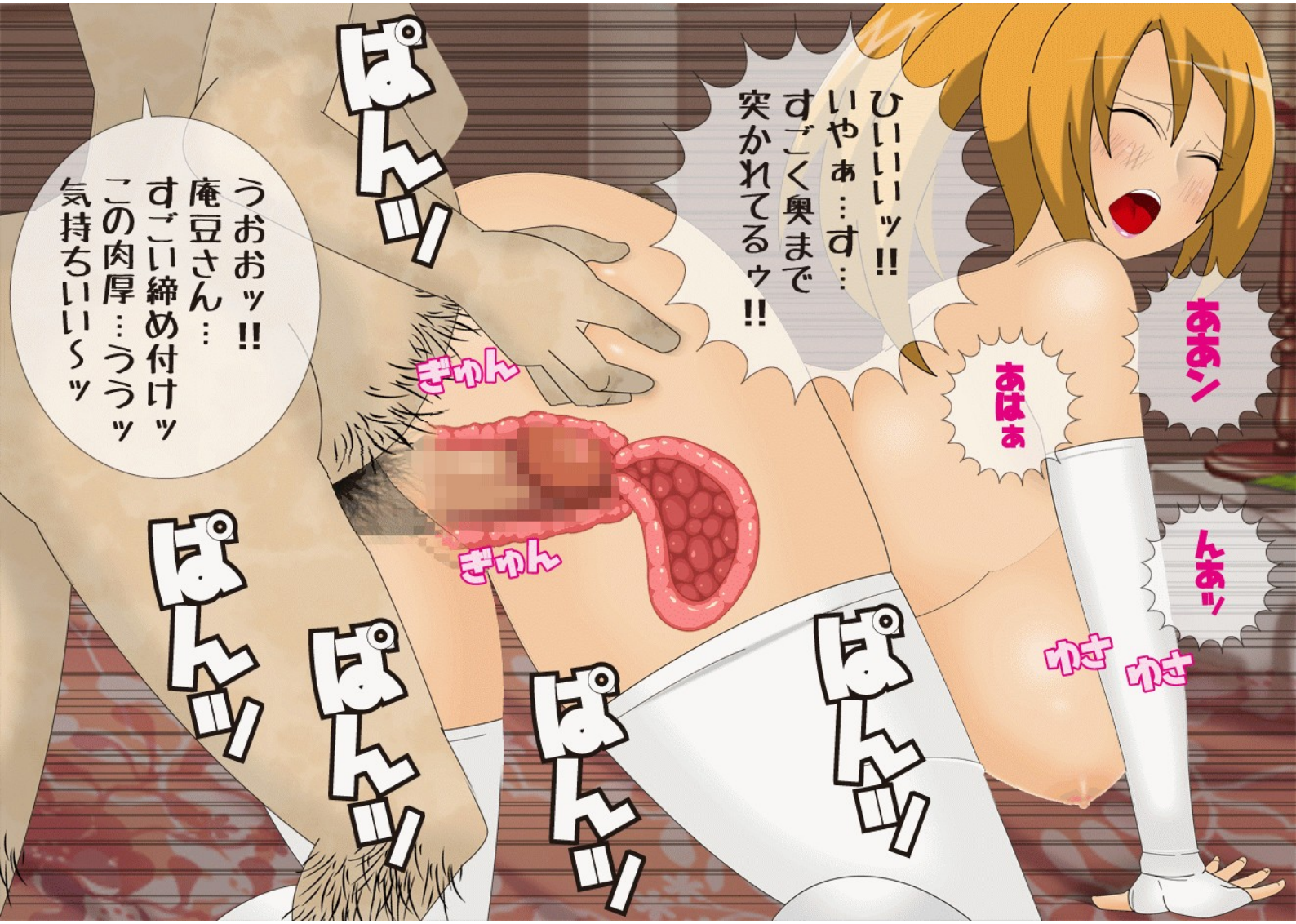

庵豆さんのフェラチオ…
最高でした…おかげで
きれいになりましたよ…
やっぱりあんなカスまみれの
精液を庵豆に注ぎ込むわけには
いかないですからねぇ…
では…次はこちらにかわいい
お尻を向けてください…

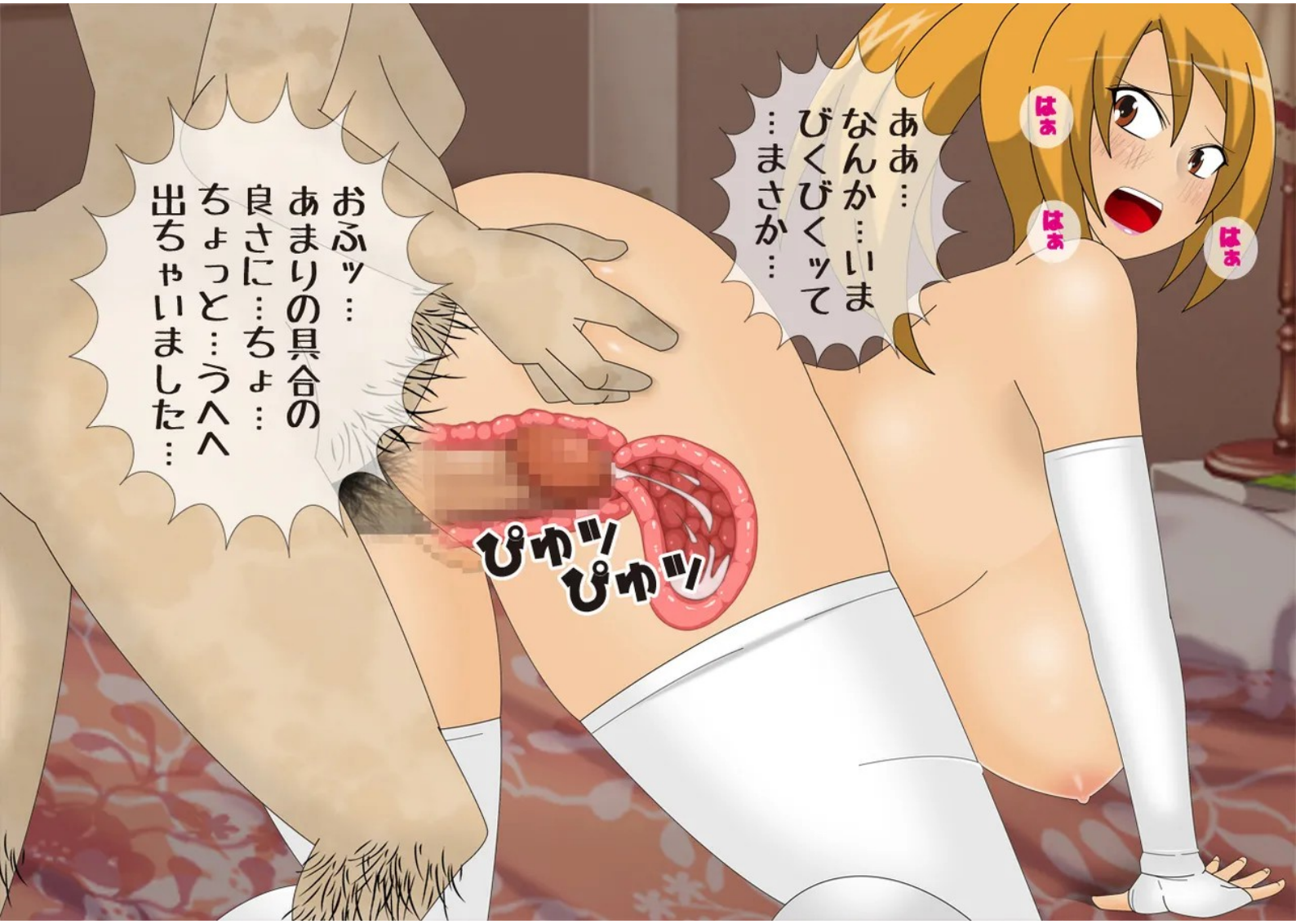
ぷるッ
も…もう
やめて…お願い…
もう十分でしょ
はぁ
はぁ

はぁ
はぁ
い…いやぁ
まさか…本当に
入れる気なのッ!!
さわ
さわ
おほぉ〜ッ
これはこれは…
安産型の良いお尻
ですねぇ…

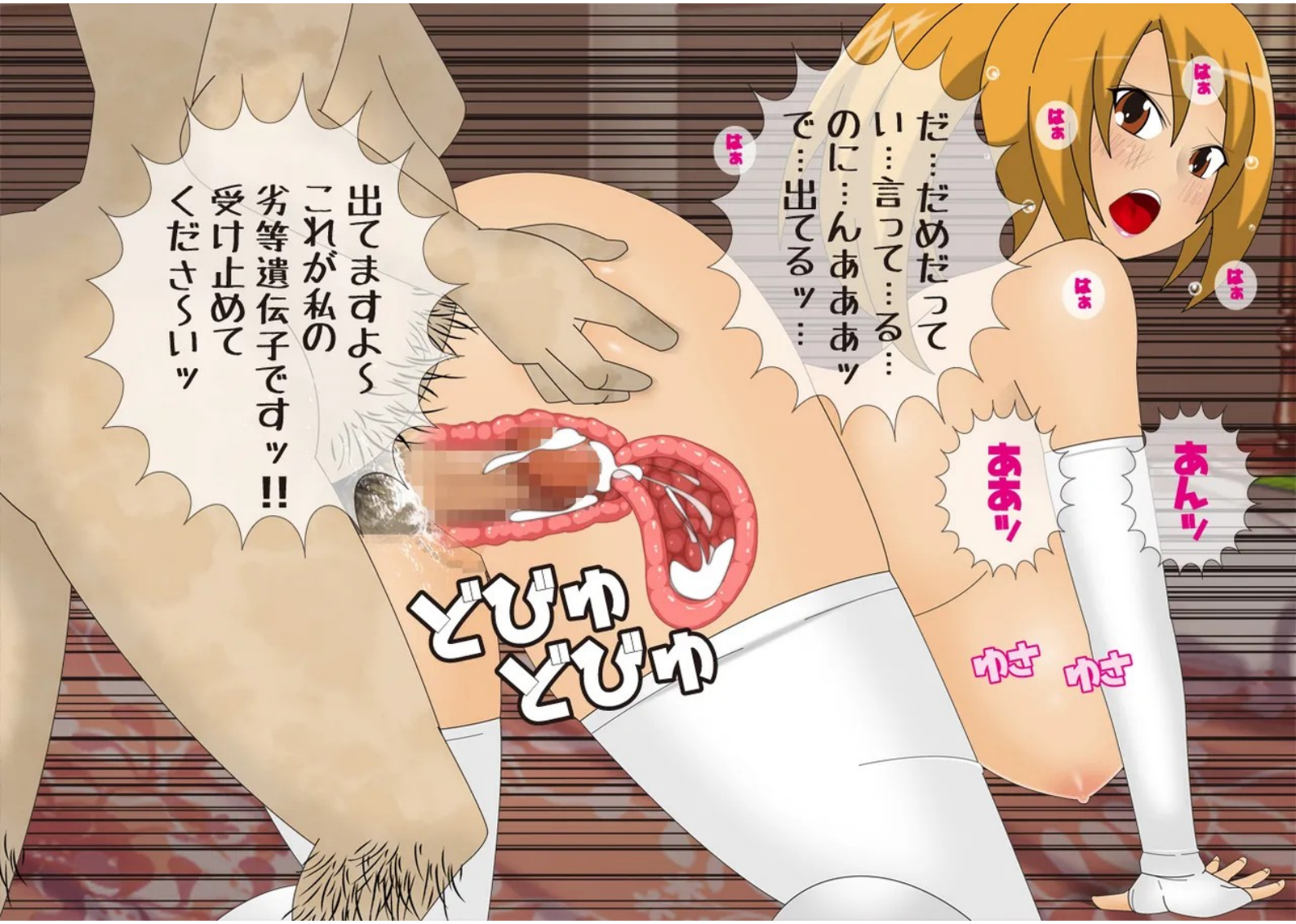
びくっ!
びくっ!
あぐぅ
は…入って…
くるぅ…おやじの
汚いチ○ポがッ!!
じゅぶ
じゅぶ
あああああッ
俺豆さんの中に
入っていきますぅ
ウホ~ッ!!

びくッ
びくッ
はぁ
はぁ
ああッ
んんあああッ
だ…だめぇ…
ぬ…抜いて…
す…すご…ッ
な…中で大きく…
なってるぅッ!!
じゅぶ
じゅぶ
き…気持ちいいッ
なんて気持ちいい
膣内なんですかッ
す…すぐに出て
しまいそうですッ


ひいいいッ!!
いやぁ…す…
すごく奥まで
突かれてるゥ!!
あぁン
あはぁ
んあッ
ゆさ
ゆさ
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
ぱんッ
ぎゅん
ぎゅん
うおおッ!!
俺豆さん…
すごい締め付けッ
この肉厚…ううッ
気持ちいい〜ッ


ああ…
なんか…いま
びくびくッて
…まさか…
はぁ
はぁ
はぁ
おふッ…
あまりの具合の
良さに…ちょ…
ちょっと…うへへ
出ちゃいました…
ぴゅッ
ぴゅッ

はぁ
はぁ
はぁ
あんッ
ああッ
ゆさ
ゆさ
だ…だめよ…
な…なかには…
出さない…で…
ふあああああッ
ぱん
ぱん
気持ちいいいッ
止まりませんッ
もっともっと…
出してあげます
からねぇ～ッ!!

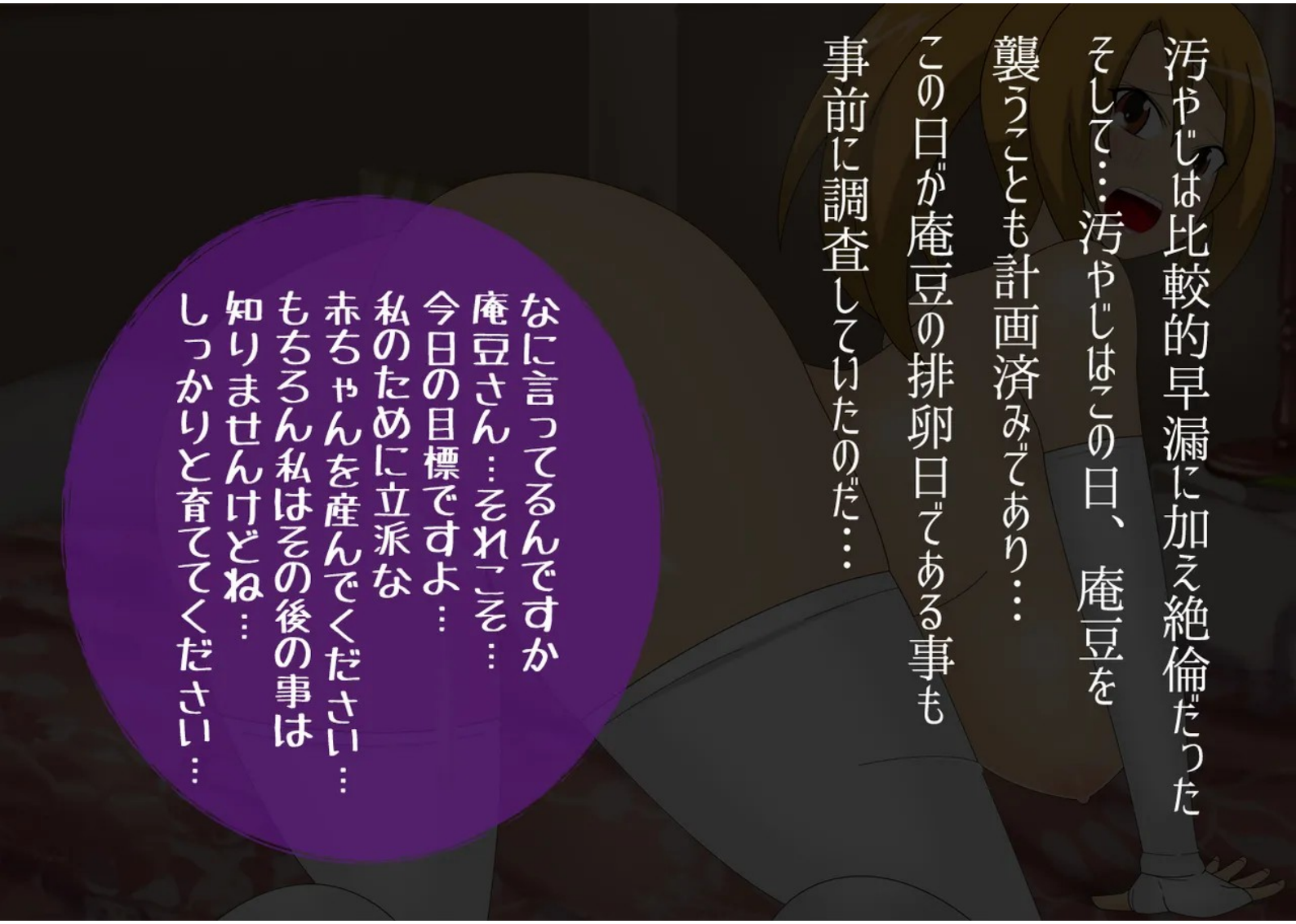

あんッ
ああッ
ゆさ ゆさ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
だ…だめだって
い…言って…る…
のに…んあぁあッ
で…出てるッ…
どびゅ
どびゅ
出てますよ～
これが私の
劣等遺伝子ですッ!!
受け止めて
くださ～いッ

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
あうッ…
すごい…いっぱい
出てる…おやじの
劣等遺伝子ッ!!
あひッ
んへッ
ゆさ ゆさ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
まだまだ
出ますよッ～
私の精子は無限です
庵豆さんの膣を
満タンにしますッ

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
あぁッ
あひッ
ゆさ
ゆさ
あぎぃぃッ!!
わたしのなかに…
精子がいっぱい…
溢れてるぅ!!
どびゅ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
どびゅ
さ…最高ですッ
あの…俺豆さんと…
セックスして…
中出しできるなんて
夢のようですねぇ

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
ああぁッ
ほ…ほんとに…
中に…出す…
なんて…
いやぁ～ッ
けっこう出ましたねぇ
でも私の玉袋はまだ
たんまり蓄えて
ますからねぇ…
びくッ
びくッ

そ…そんな…
こんな事続けたら
ほ…本当に…
赤ちゃんが…
で…できちゃうよ
はぁ
はぁ
はぁ
たら～


汚やじは比較的早漏に加え絶倫だった
そして…汚やじはこの日、庵豆を
襲うことも計画済みであり…
この日が庵豆の排卵日である事も
事前に調査していたのだ…
なに言ってるんですか
庵豆さん…それこそ…
今日の目標ですよ…
私のために立派な
赤ちゃんを産んでください…
もちろん私はその後の事は
知りませんけどね…
しっかりと育ててください…

はぁ
はぁ
そ…そんな…
ひどい…
あんたの子なんか
産みたくない…
ぴとッ
だめですよ～ッ
やっぱり出産は
同意の上じゃないと
すっきりしませんからねぇ～うひひ

やぁあッ
も…もう入れないでいやぁあぁッ
じゅボボッ
さぁッ子作りセックスを続けましょうッ

ああああッ
むぅ…無理…
だめ…わたし…
もう…あぁッ
じゅぼッ
じゅぼッ
いやだ…なんで…
すごく気持ちいい…
こんな汚いおやじと
セックスしてるのに
私…感じてる…!?
おやおやッ
庵豆さん…
なかなか良い
表情ですねぇ

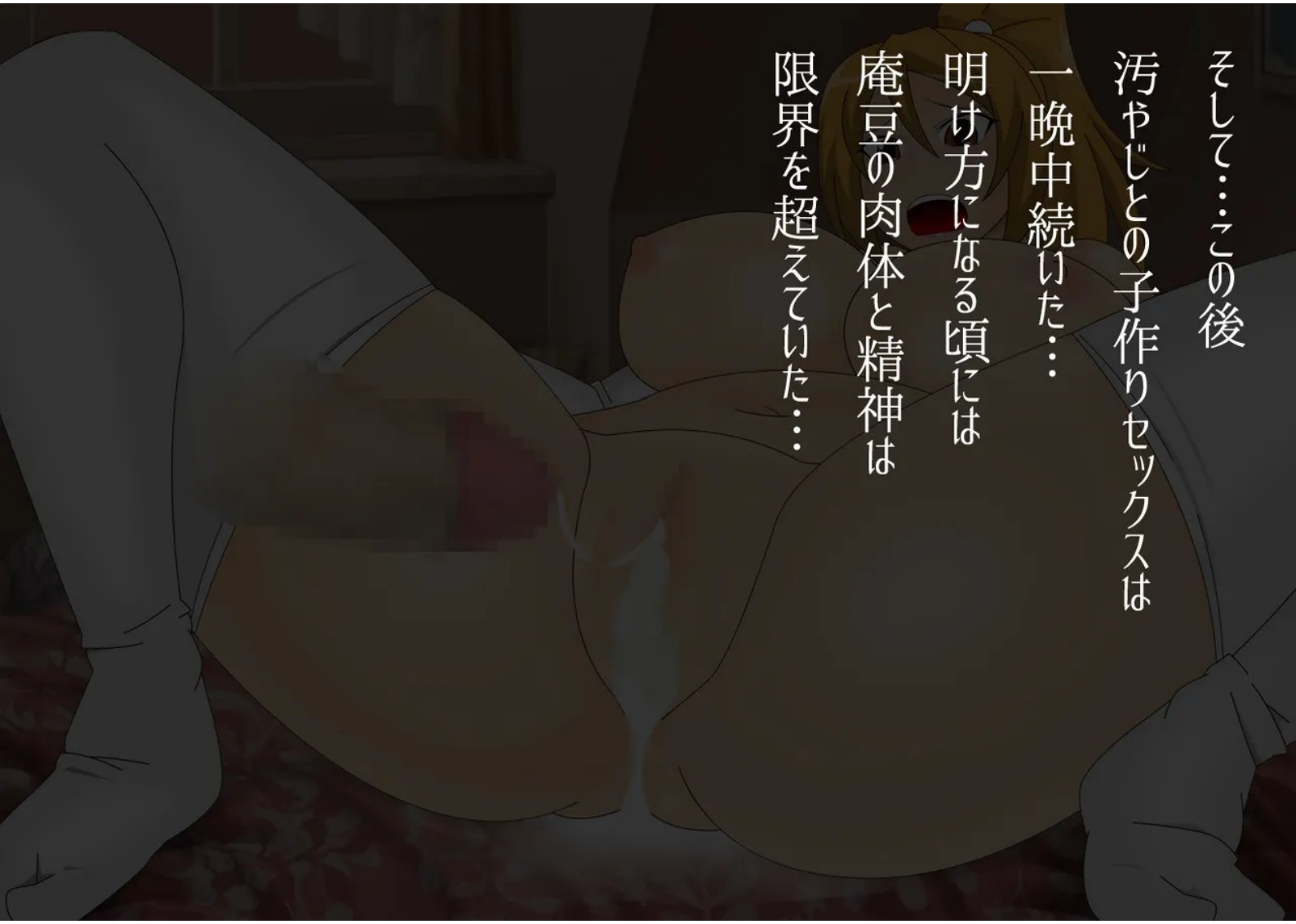
ひぎぃぃ!
あぁ!
もうやめてぇ!!
これ以上その
汚いチ○ポで
感じたく
ないよぉ!!
たゆッ
たゆッ
あはぁ
じゅぼン
じゅぼン
じゅぼン
じゅぼン

あひぃ
びくッ
びくッ
だめぇ!!
気持ちいいよぉ
せ…せっくすぅ…
気持ちいい～ッ!!
じゅぼッ
じゅぼッ
じゅぼッ
じゅぼッ
これは
嬉しいですねぇ
ついに本音が
でましたねッ

あぁッ
でッ…出てるッ!!
また…うす汚い…
れ…劣等遺伝子が…
私の中に出てるよぉ!!
ビュルルル

あぐッ
んんッ
あ…ああ…!!
感じる…い…いま…
受精しちゃってる…
私の遺伝子と…
融合しちゃってるぅ!!
ビクビクビク

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
あ…あああ…
わたし…これで…
妊娠しちゃうの…
どろどろ
どろどろ
もちろん…
しっかり妊娠
してもらいますよぉ
でも念のために
あと数十回は中出し
しましょうねぇ～


そして…この後
汚やじとの子作りセックスは
一晩中続いた…
明け方になる頃には
庵豆の肉体と精神は
限界を超えていた…

ね…ねぇ…
さっきから
お腹触って
なにしてるの？
これですか？
これは庵豆さん…
排卵マッサージ
ですよ…しっかり
受精できるようにね
ぱんぱん
なでなで
あんッ
やさ
あんッ
あんッ
も…もう…
そんな事しなくても…
絶対妊娠してるよ…
何十回中出ししたと
思ってるの…ばか…

あ…あのさ…
そろそろ…
体位変えない？
ムッ
ゆさ
ムッ
ゆさ
いやですよぉ…
これが良いですよ
身体も密着して…
まさにラブラブ
セックス…うひッ
ぱんぱん
なでなで
あ…あぁん…
でも…あんたが…
私に全体重かけてるから
私…もう足ががくがくで
立ってられないのよ…

あはぁ
あ～ん!!
ダメだって…
言ってのにぃ!!
もぉ…腰が…
限界なのぉ!!
あぁン
ゆさ
ゆさ
あぁン
だめです!!
この体制が排卵に
良いような気が
するんですッ!!
じゅぼン
じゅぼン
さわ
さわ

あ～ん…もうちょっとは私の事も考えてよッ
ンッ
ゆさ
ンッ
ゆさ
おや～？そんな生意気言っていいんですか？もうベロチュウしてあげませんよ？
ぱんぱん
なでなで
じゅぼじゅぼ

んッ
う…ううっ…
べ…べろ…
ちゅう…
んッ
ゆさ
ゆさ
してあげませんよ？
なんならセックスも
やめましょうか？
いいんですか～ッ？
ぱん
ぱん
なでなで
じゅぼ
じゅぼ

え…そ…そんな…
ムッ
ムッ
ムッ
いやだ…べろちゅう…してほしい…
やさ
してほしいなら私の言うことをしっかりと聞きなさい…
ぱんぱん
なでなで
じゅぼじゅぼ

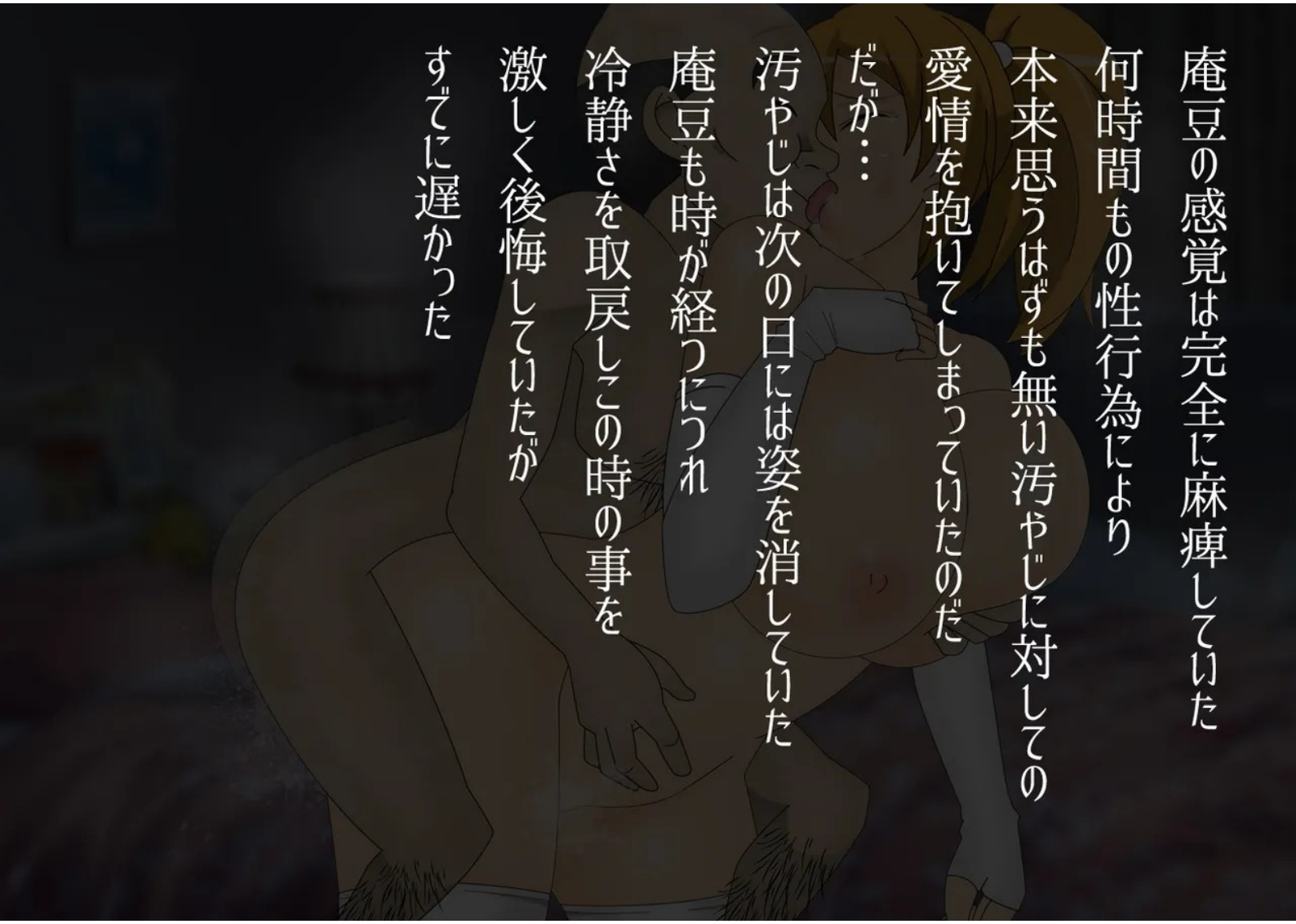
あ…あんッ
わ…わかりましたッ
言うこと聞きますッ
よろしいッ
ではご褒美に
べろちゅうして
あげましょう
ぐにゅう
ゆさ
ゆさ
ぱん
ぱん
なで
なで
じゅぼ
じゅぼ
あンッ
あンッ
あン…
おっぱい
気持ちいいッ

あ～んッやったぁ
早くべろちゅうッ
してッ早くッ
うへへッ
庵豆さん…
まるで犬ですね…
でも…いやらしい
甘い息だ…うひッ
はッ
はッ
ぱん
ぱん
じゃぼ
じゃぼ
じゃぼ
じゃぼ
じゃぼ
ぐにゃ
ぐにゃ

はむぅ
んんッ
むじゅう
ぐちょッ
れろッ
ぐちゃべちゃ
ああぁッ
気持ちいいッ
こんなおやじの
臭くて汚い
唾液が…
おいしいよぉ
何度味わっても
俺豆さんの唾液は
本当に美味しいなぁ
これは私だけの
ものだぁ…うははッ
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼ

ね…ねぇ…
そんなに私のことが
好きなの…？
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
むにゅ
むにゅ
もちろんですよぉ
3年前…まだ
庵豆さんが学生で
退魔士をやってた頃
からずっと見て
ましたよぉ
あ…あはッ♥
うれしい…こんなに
私のこと好きになって
くれる人がいるなんて
あ…でも半妖怪だけど…

はむぅ
ぐちょッ
れろッッ
わたしも
すきぃ♥
ぐちゅぺちゃ
愛しあいましょう
庵豆さんッ
そして二人の
愛の結晶を産み
落として下さいッ
ぱんぱん
ぐにゅ
ぐにゅ
なでなで
じゅぼ
じゅぼ


庵豆の感覚は完全に麻痺していた
何時間もの性行為により
本来思うはずも無い汚やじに対しての
愛情を抱いてしまっていたのだ
だが…
汚やじは次の日には姿を消していた
庵豆も時が経つにつれ
冷静さを取戻しこの時の事を
激しく後悔していたが
すでに遅かった

数日後――――
予想通りではあったが
やはり生理は来ない…
本来なら汚やじに相談する
事であるが、その汚やじは
いない…
庵豆は悩んだまま月日だけが
経っていった…

数カ月後
通常の妊娠期間よりも
明らかに早く異常な程
庵豆のお腹の膨らみは
大きくなっていった
庵豆は戸惑っていたが
中絶の決断をする間も
無かった・・・

それでも庵豆は妖怪との
戦いを止めるワケには
いかなかった・・・
この事は誰にも言えず
戦闘服も妊婦用に作り変え
ただひたすら戦った・・・
戦闘の最中は妊娠の事を
忘れられたからだ・・・

だが現実はそうもいかない
庵豆のお腹はさらに膨らみ
着実に新しい命が
庵豆の体内で作られていた…
敵はもちろんその弱点を
狙ってくる…庵豆は無意識に
必死にお腹の中の命を
守るように戦っていた…

庵豆は無意識にお腹を庇うことで
完全に母性が生まれていた…
そして通常の妊娠より
何カ月も早く
庵豆に陣痛が襲ってきた

はぁ
はぁ
あああッ
なんで
早すぎるッ
こ…こんな
急に来るなんて

はッ
はッ
ぎいいいいッ
ばこッ

庵豆は一人
自分の部屋で出産を行った
数か月前まさかこの部屋で
出産するとは夢にも思わなかったが
ついに…汚ヤジの子を
生み落としたのだった…

数カ月後——
ちゅくちゅく

この子には
とても愛情を感じる…
でもなんだろう…
この子の顔を見る度に
複雑な気持ちになるわ
まさか
こんなに
早く母親に
なるなんて…
ちゅく
ちゅく

それはとても容姿端麗な
庵豆の子とは思えないほど
醜い子どもであった
そう…あの汚やじ
そっくりな容姿であった
庵豆は自らの子と愛情を
与えるが…その顔だけは
いつまで経っても慣れる事は
無かった…見る度に
あの日の事…あの汚やじを
思い出すからである…